

# 港

フォト劇場 (46)

写真が生まれるものがたり

「港ちゃん」こゑ張り呼びて精いつばい空き缶蹴りき暮れづくみちに  
水島晴子

敗戦間近、隣人となった一家に「岬」「港」という名の小学生の兄弟がいた。おじ様に名づけていただいたのだと聞いた。活潑な港さんとよく遊んだ。そのおじ君は「四S」の一人、かの大俳人だと十数年後に知った。

聖誕祭近く横浜港内に入りくる船も波もにぎはし  
武田弘之

今回は私にとって親しい風景で、港の見える丘公園や外国人墓地なども思い浮かべながら詠んだ。一首の中に重要な四音の言葉が込められているので探して教えてください。なお、初句は五音のカタカナ語。(解答は186頁)



写真・木畑紀子

ケーブルの宙<sup>そら</sup>から眺む「みなとみらい」〈インタ  
ーコンチネンタルホテル〉〈大観覧車〉など

奥村晃作

横浜港はエリアが分かれておりますね。山下公園とか、赤レンガ倉庫とか、みなとみらいとか。みなとみらいには目立つ形の「インターコンチネンタルホテル」があり、かつてそこでコスモスの全国大会が行われましたね。

は 草深き<sup>むら</sup>邑の生れのわれなればただに怖ろし青海原  
森重香代子

縁あって海のすぐ傍で暮らしているが、窓から海を眺めて快哉を叫ぶなどということはない。海中にあって人間の眼はどれくらい先まで見通せるのであろうか。九十間近の今、そんな体験をすることはもう無いのである。